

日時：平成22年4月28日（水） 13:00～15:00

場所：八戸市公会堂文化ホール2階 会議室

1. 開会

【事務局】 ただ今より、「第1回第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会」を開催致します。本日の会議は、お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願い致します。

2. 委嘱状交付

【事務局】 それでは、最初に、当委員会の委員の皆様へ委嘱状を交付いたします。市長が、委員の皆様のお席に参りますので、その場でご起立の上、お受け取りください。市長、よろしくお願い致します。

(市長から、各委員に対し、委嘱状交付)

【事務局】 なお、本日は、類家徳昌様が都合によりご欠席となっておりますことをご報告致します。

3. 市長あいさつ

【事務局】 続きまして、小林市長からご挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願い致します。

【市長】 それでは、一言ご挨拶を申し上げます。皆様には、常日頃から、市政運営につきまして、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、この度は、大変お忙しい中、委員にご就任いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、当市では、平成19年度から、当市の将来都市像である「海と大地が響きあう北の中核都市」の実現に向け、第5次八戸市総合計画の推進に全力で取り組んで参りました。

しかし、昨今の景気低迷による雇用の悪化、本年12月に迫った東北新幹線全線開業などの社会経済情勢の変化や、人口減少時代に対応した定住自立圏構想の取り組みなど、前期推進計画の策定時とは異なる新たな状況が生じているところであります。

このような状況に迅速かつ適切に対応するため、総合計画の後期推進計画を1年前倒しして策定し、マニフェストに掲げた新たな施策も位置付けながら、さらなる市政の前進と市民満足度の向上に努めて参りたいと考えております。

委員の皆様には、これから約半年間にわたり、後期推進計画について大所高所からご意見を賜り、将来都市像の実現に向けた新たな計画の策定にご協力を賜りますようお願い申し上げます。どうぞ宜しくお願い致します。

4. 設置要綱の説明

【事務局】 続きまして、当委員会を運営する上での基本的な事項を規定しました設置要綱について、事務局から説明致します。

【事務局】 それでは、当委員会の設置要綱についてご説明を申し上げます。お手元にお配りしています第1回会議資料の14ページをお開き願います。

第1条であります。第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会を検討するため、当委員会を設置するも

のでございます。

第2条は組織でございます。第1項。策定委員会は、有識者、公募市民等の中から、市長が委嘱する委員25名以内で組織を致します。第2項は、委員会には委員長1名、副委員長1名の役員を置き、委員の互選により定めるものとします。第3項、委員長は、会務を総理し、会議の議長となります。第4項、副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、または委員長が欠けたときは、その職務を代理することと致します。

任期でございます。第3条。委員の任期は、後期推進計画の策定をもって終了致します。

次に会議。第4条。委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集を致します。

第5条は部会で、第1項。委員会に、次に掲げる4つの部会を置き、後期推進計画において今後6か年にわたり重点的に取り組む施策・事業として、戦略プロジェクトについて専門的な検討を行うものと致します。4つの部会は、そこに掲げたとおりでございます。第2項は、各部会の規定でございまして、委員7名以内で組織をするものでございます。第3項。各部会には、部会長1名、副部会長1名を置き、当該部会に属する委員の互選により定めるものと致します。第4項は、部会長。第5項は、副部会長の職務を規定するものでございます。

第6条は、委員会は、必要があるときは、関係者に対し、資料の提出、意見の開陳、説明その他の必要な協力を求めることができるものとするものであります。

第7条は庶務で、委員会の庶務は総合政策部政策推進課において処理を致します。

その他の事項と致しまして、第8条。この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が策定委員会に諮って定めるものと致します。

以上で設置要綱の説明を終わります。

【事務局】 ただ今の説明に対して、ご質問等がございますか。

5. 会長・副会長の選任

【事務局】 続きまして、当委員会の委員長及び副委員長を選任したいと存じます。委員長及び副委員長が決まるまでの間、議事の進行については、仮議長として小林市長にお願いしたいと存じます。市長、お願い致します。

【市長】 それでは、委員長および副委員長が決まるまでの間、私が仮議長を務めさせていただきます。委員長および副委員長につきましては、先程の委員会設置要綱第2条第2項の規定に基づき、委員の互選により定めることとなっております。どなたかご意見はございませんか。

【委員】 前期の戦略プロジェクト委員会にも関わっていただいて、学識経験者でもございますので、藤田委員がよろしいかと思えます。

【市長】 ただ今委員長については、藤田委員を推薦するご意見がございました。皆様いかがでしょうか。

一同、「異議なし」

はい、異議なしと認めます。それでは、委員長につきましては、藤田委員にお願いを致します。副委員長についてはいかがでしょうか。

【委員】 現在の八戸市が進めております、八戸地域定住自立圏共生ビジョン懇談会におきまして会長をな

されている八戸工業高等専門学校佐藤副校長にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【市長】 はい、ありがとうございました。ただ今、副委員長につきましては、佐藤委員を推薦するご意見がございましたが、皆様いかがでしょうか。

一同、「異議なし」

はい、異議なしと認めます。それでは、副委員長につきましては、佐藤委員にお願いを致します。委員長および副委員長が決まりましたので、私は仮議長としての任務を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【事務局】 委員長ならびに副委員長におかれましては、席の移動をお願い致します。

それでは、藤田委員長と佐藤副委員長から、それぞれひとことずつご挨拶をいただきたいと思います。最初に藤田委員長、お願いいたします。

【委員長】 それでは改めまして、藤田でございます。私は、第5次の八戸市総合計画の前期になるのでしょうか、その戦略プロジェクト委員会に参加してまいりました。そういうこともあって、今回、この後期推進計画に関わることになったのだと思います。どうぞよろしくお願い致します。

八戸市では、総合計画に基づき施策等を実行しているわけですが、色々な記事等を見て、かなり確実かつ詳細に行っていると感心しております。さらには、ただ実施するだけではなくて、PDCAを確実に回して、改善等をしながら取り組んでいることが、非常に素晴らしく、敬意を表するものでございます。

私もあまり大それたことは言えないのですが、まず、八戸市が、周辺の自治体等と協力しながら、発展させることが大事だと思います。市民目線で言いますと、安心で安全、そして一人ひとりの精神的、そして物質的に豊かな生活ができることが、理想だと思っております。最終的にそういうところをめざすことが重要なことではないかと思っております。

後期推進計画は、おそらく様々な具体的プロジェクトの中で議論なさると思うのですが、確実に実行できる計画を策定して、確実に成果を上げれることを、この計画の中に出して、それを市民ともども協力しながら、成果を上げていくということをぜひ応援したいと思っております。

今日、メンバーを見ますと、各界から出ております委員の方は、第一線で活躍している人ばかりです。様々な分野での、それぞれの想いを、この委員会を出していただいて、素晴らしい計画ができればと思っております。ぜひ、積極的なご発言、ご提案をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

【事務局】 藤田委員長、ありがとうございました。続いて、佐藤副委員長、お願いいたします。

【副委員長】 皆さんこんにちは。八戸高専の佐藤勝俊と申します。どうぞよろしくお願い致します。

先程、推薦のところになりましたけれども、八戸圏域の定住自立圏共生ビジョンの策定に一度携わったものでございます。この策定の際に一番感じたことは、八戸は非常に素晴らしいまちだということです。海のもの、山のものがあります。ただし、それを宣伝するのが下手かなというのを感じたのですが、それでも、B級グルメもあります。いかにして連携していくかというのが重要かなと感じております。

そのときに一番話題になったのは、やはり少子高齢化という問題です。人口の減少というのは、あると思うのですが、いかにしてそこにいる人たちが元気で、またここに行きたいというまちづくりをやっていくかとい

う、それが一番重要なのかなと思います。

そういう意味で、中央集権から地方分権へという流れが来ていますけれども、今は地域主権といいますか、そういう見方をしているかと思うのです。その地域に住んでいる人が、その地域を行政に任せるのではなく、みんなで考えていくという、そういう仕組みづくりが必要かと思います。

そういう意味で、今回、3年間にわたる有識者アンケートをまとめられていますけれども、満足度がアップしています。小林市長のリーダーシップのもとに、満足度が益々アップするような施策をみんなで考えていきたいと思っています。どうぞ皆さんの活発なご意見を期待しております。どうぞよろしくお願い致します。

【事務局】 佐藤副委員長、ありがとうございました。なお、市長は引き続き公務がございますので、ここで、退席させていただきます。

それでは会議に先立ちまして、事務局の職員を紹介いたします。

高島司、八戸市総合政策部長です。

【事務局】 高島です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【事務局】 大坪秀一、総合政策部次長兼政策推進課長です。

【事務局】 大坪です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 谷崎安進、政策推進課主査です。

【事務局】 谷崎です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 清水啓仁、政策推進課主査です。

【事務局】 清水です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【事務局】 八木澤尚子、政策推進課主査です。

【事務局】 どうぞ、よろしくお願いいたします。

【事務局】 大村武史、政策推進課主査です。

【事務局】 大村です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【事務局】 最後に、私は政策推進課総合政策グループの佐々木と申します。

それから、今回の後期推進計画策定にあたり、ご協力いただきますコンサルタントの株式会社エックス都市研究所から花田地域・都市づくり本部長です。

【E X都市研】 計画づくりのお手伝いをさせていただきます、花田と申します。宜しくお願い致します。

【事務局】 同じく、佐久嶋研究員です。

【E X都市研】 佐久嶋と申します。よろしくお願い致します。

【事務局】 それでは、資料をご確認いただきまして、本日の会議に入りたいと存じます。

資料と致しましては、先日お送りしております次第と会議資料、別紙資料1から資料3、そして、本日お配りしました席図と、平成19年1月に実施しました市民アンケートの調査票をつけさせていただいております。資料の漏れ、あるいはお忘れの方はございませんか。なければ、議事に入りますので、以後の進行は、藤田委員長、よろしくお願い致します。

【委員長】 それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。闊達なご意見、よろしくお願い致します。それでは早速、議事に入りたいと思います。最初は、報告案件です。内容は、「第5次総合計画後期推進計画策定の背景」と「計画の策定体制」でございます。事務局からご説明をお願い致します。

【事務局】 はい、それでは、報告案件の1と2を一括してご説明を致します。

会議資料の方の1ページをお願い致します。報告案件1の第5次総合計画後期推進計画の背景でございます。1ページがその概要を整理させていただいております。平成18年の6月に、基本構想を10か年、平成19年から28年度までのものを定めまして、その後9月には、平成19年度から23年度までの5か年の前期推進計画を策定致しまして、現在に至っております。

ここで、お手元にお配りしております、総合計画の冊子の6ページ、7ページをお開きいただきたいと思っております。総合計画の全体の背景を、このページをもって簡単にご説明したいと思っております。左側は基本構想、右側が前期の推進計画となっております。

基本構想の方は、将来の都市像といたしまして、「海と大地が響き合う北の中核都市」として定めております。10か年のまちづくりの方向と致しまして、右側の方にありますように自治経営戦略の方向、分野別計画の方向、地域別まちづくりの方向といった3つの大きな10か年のまちづくりの方向を定めているものでございます。

それに対しまして、右側のページの前期推進計画でございますけれども、こちらは5か年の総合的な施策・事業ということで、1つには自治基盤整備計画、また分野別の計画、それから5年間にわたりまして分野横断的に重点的に実施致します施策事業を定めております戦略プロジェクト、この3つの計画・プロジェクトでもってなっているものでございます。今回は後期計画を策定していただくということになります。

それでは、会議資料の方に戻っていただきまして、2ページをお願い致します。

前期推進計画の現在までの進捗状況についてご説明を申し上げます。(1)自治基盤整備計画と分野別計画につきましては、これまで平成20年度と21年度、2か年にわたりまして、八戸市総合計画推進市民委員会を設置いたしまして、進捗管理をやっていただいております。

委員会は第5次八戸市総合計画の策定に携わってございました委員7名と公募の委員の方1名の合計8名で構成致しております。委員会の方からは、次年度以降の事業の見直しや、新たな事業に反映することを目的に前期推進計画を構成している大施策33項目に対して、意見書を2か年にわたって提出をいただいております。この大施策でございますけれども、ピラミッド型の政策体系を掲げておりますが、第5次の計画では7つの政策、この7つの政策と申しますのは、次の3ページから4ページにかけまして、自治基盤整備計画において2つ、分野別計画において5つといった自治基盤整備計画と分野別計画の7つの政策を指すものでございます。そしてその下に33の大施策というものがぶら下がっておりまして、それについて、ここ2か年、評価をいただいているというようなものでございます。それで、その内容でございます。3ページをお願い致します。市民委員会の方から提出されております意見書、20年度と21年度の総括をまとめさせていただいたもの

でございます。主なところを拾ってご紹介させていただきます。まず、自治基盤整備計画の1. 住民自治の推進におきましては、職員をはじめ市民の地域活動やボランティア活動の参加を促す仕組みを構築、協働事業の実践を積み重ねて、広く市民に協働の意識を浸透させていくことが必要である。または、地域担当職員制度を積極的に活用すべきである。さらには、地域コミュニティ計画策定などを通して、地域コミュニティの振興を一層充実させるべき、といった意見が提出されております。

次に2つ目の自治体経営の強化の分野では、定住自立圏構想や三圏域連携の推進がさらに必要であるといった意見が寄せられております。

続きまして、分野別計画の1つ目、「人かがやくまちづくり」におきましては、地域密着型教育推進事業等を全市的に展開していくことが必要である。国際交流では、外国人と市民の双方がそれぞれの文化を理解し合うことが必要である。さらに小学校における英語教育の充実にも努めていくべき、といった意見が提出されております。

次に2つ目の「活力あるまちづくり」、こちらの方の分野では、企業誘致、産学官の連携、貿易の振興、中心市街地で現在建設しております地域観光交流施設のPR、市民参画、さらには、農林水産資源の戦略的な活用、八戸ならではのストーリー性のある観光の振興、そういった意見が提出されているところでございます。

続きまして、4ページの方に移らせていただきます。3つ目の「健康・福祉のまちづくり」、この分野におきましては、災害時要援護者を支援していくための体制の強化、障がい者の自立支援、さらには福祉サービスへの第三者評価の導入や高齢者のいきがい生き甲斐づくり、社会参加の促進などにも力を入れていくべき、という意見が提出されております。

そして4つ目の分野、「環境にやさしいまちづくり」におきましては、循環型都市の実現を目指し、より具体的な実行計画を市民に分かりやすい形で示していくことが必要、などといった意見が出されてございます。

そして最後、5つ目の分野でございますが、「安全・安心なまちづくり」の分野におきましては、学校の耐震化を最優先で進めるべきである。このほか、自主防災組織の組織化率の向上、公共交通の利活用の促進、大規模災害等への対策などといった意見が出されてございます。

また、分野別計画の共通事項と致しましては、市民と行政の協働による新しい公共を創造していくべき、といった意見が出されているところでございます。

以上がここ2か年に渡りまして、市民委員会の方から提出されている意見書の概要でございました。

次に4ページの下のところを書いてございますが、戦略プロジェクトの進捗状況につきましては、今現在、庁内でその進捗状況の取りまとめを作業中でございます。5月14日、次に開催いたします、第1回の戦略プロジェクトの部会におきまして、皆様方にご提示したいと考えております。

それでは、次にまいります。5ページをお願い致します。

こちらでは前期推進計画策定後の当市を取り巻く環境の変化につきまして、10項目の環境の変化を拾い出しまして、それぞれにおいて、全国と八戸地域の状況、そしてそれから導き出される今後の期待されます効果、施策、そして代表的な指標のここ数年の動向をデータ、グラフとして、それぞれ示しているものでございます。

簡単にご説明申し上げますと、まずは1つ目、経済・雇用情勢の変化ですけれども、リーマンショックを契機とした景気低迷、企業業績、雇用悪化の一方、中国、アジアの経済成長が進んでおります。当地域におきましては、この12月に、東北新幹線全線開業、さらには八戸ポートアイランドにおけるLNG基地立地の動きが見られます。期待される施策と致しましては、雇用対策の強化が求められているところでございます。

それから2番目の一次産業を取り巻く環境の変化におきましては、全国的に「食の安全」への意識の高まりと農業者戸別所得補償制度の導入といった中で、当地域におきましては、畜産産業の拠点化の進展、ハサップ対応の魚市場の整備などが進められているところでございます。期待される効果、施策と致しましては、一次産業の振興を挙げております。

3つ目は中心市街地を取り巻く環境の変化でございます。全国的に中心商店街の空洞化、または商業施設立地の郊外化が進む中で、当地域におきましても、中心市街地における歩行者通行量の減少が際立ってきております。そういった中で八戸ポータルミュージアムの整備をはじめとする、中心市街地活性化基本計画に基づく取り組みが、現在進められているところでありまして、中心市街地の活性化が、今後期待されるところでございます。

次のページにまいります。4つ目といたしまして、観光・文化・スポーツにおきまして、全国的な観光立国の推進、さらには、アートによるまちづくりの動きが見られます。当地域におきましてもフィールドミュージアム八戸の推進など文化、観光のまちづくりによる都市の多様な魅力づくり、そういったところが期待されているところでございます。

5つ目といたしまして、環境問題への対応でございます。全国的には地球温暖化への本格的な対応が求められていますけれども、当地域におきましてもごみの減量化が進んでおります。プロジェクト・アンダー1000の達成、公共交通の利便性の向上の取り組みなど、地球温暖化対策の充実が期待されているところでございます。

6つ目でございます。子育て・教育環境の変化と致しまして、少子化の進展、また脱ゆとり教育への動きも見られてきております。当地域におきましても保育の需要の多様化、地域密着型教育の導入、小中学校の耐震化など、次世代育成の充実が今後期待されているところでございます。

次に7ページにまいります。7つ目と致しまして、安全・安心意識の高まりについてですが、高齢社会が進展する中、年金・医療制度の改革や介護ニーズの高まり、災害に対する不安など、安全・安心に対する国民ニーズが高まってきております。当地域におきましては、ドクターヘリ、ドクターカーの導入、自主防災組織の設立が進んでおりまして、共生社会の推進ということが、今後期待されるところでございます。

8つ目でございます。新たな行財政改革の動きと致しまして、厳しさを増す国・地方の財政の中、当地域におきましても第5次行財政改革大綱を策定致しまして、一部署一改善といった取り組みを現在進めているところでございます。新たな行財政改革の推進が求められているところでございます。

9つ目と致しまして、地域コミュニティを取り巻く環境の変化につきましては、全国的に地域のつながりの低下といったことが懸念されております。町内会加入率の低下も見られるところでございます。当地域におきましては、協働のまちづくりの一環と致しまして、地域コミュニティ計画等に基づく新たな地域の動きですとか、市民と行政との協働の事業の展開がされておりまして、新たな公共の形成といったところが期待されているところでございます。

次のページにまいります。最後の10個目、新たな広域連携の動きと致しましては、地域主権の動きが全国的に叫ばれている中でございますが、当地域におきましては、定住自立圏の形成、三圏域連携の取り組みといったことを推進しているところでございます。広域連携の一層の推進が課題となっているということでございます。

以上が前期の推進計画策定後の当市をとりまく環境の変化として、10項目を挙げさせていただいたものでございます。

次に、新manifestoの概要にきまして、ご説明を致します。manifestoの位置付けでございますが、昨年の市長選におきまして、市長が政策公約として、4か年の任期、平成21年11月から平成25年11月末まででございますが、その中で実行しようとする施策を示したものでございます。

その構成ですが、3つの公約のもとに24のmanifestoが掲げられまして、その中に100の施策が掲載されております。具体的には9ページの方にその一覧を掲載させていただいております。

まず3つの公約の1つ目、安心・安全社会の実現におきましては、1つ目の「子育て支援を充実させます」から8つ目の「循環型都市の水準を高めます」の8つがございまして、その中に34の事業が載せられております。

2つ目のさらなる活力創出におきましては、1つ目の「地域経済を活性化します」から8つ目の「文化・スポーツを一層振興します」の8つの中に37の事業が載せられております。

そして、3つ目の新たな行財政改革と住民参画におきましては、「協働のまちづくりを進めます」から「広域連携・自立の促進を図ります」の8つの項目に対して29の事業が載せられております。

詳細につきましては、資料1といたしまして「市長マニフェスト」お配りしておりますので、どうぞご覧いただければと思います。

それでは、10ページにまいります。10ページは後期推進計画の策定方針ということでございます。ただ今ご説明申し上げてまいりましたように、社会経済情勢等の変化、定住自立圏の形成、第5次行財政改革大綱の策定など、前期推進計画の策定時とは異なる新たな状況に対応するために、今回、第5次八戸市総合計画前期推進計画の見直しを行いまして、後期推進計画を1年前倒して策定するものでございます。

具体的には、多くの市民の参画を得て策定を致しました前期推進計画の構成を基本として、新たな施策や事業の追加・見直し、そして、新マニフェストに掲げる施策の位置付け等を行うことと致します。

そして、後期推進計画の検討方法ですが、1つ目と2つ目の自治基盤整備計画および分野別計画は、第2回目以降の当委員会におきまして、検討をいただきたいと考えております。そして、戦略プロジェクトにおきましては、戦略プロジェクト部会で検討していただけたらと考えております。

なお、この後期推進計画の策定に当たりましては、平成16年10月に旧八戸市と旧南郷村が合併したわけですが、その時に新市建設計画（平成17年度から26年度まで）を策定しておりまして、その中の前期の計画が21年度で終了致しております。したがって、総合計画と並行して、新市建設計画の方も策定致すものですから、その中では南郷区の地域協議会の方から意見を聴取して進めてまいりたいと考えております。

それでは、続いて報告案件2つ目の方も併せて説明を申し上げたいと思います。11ページをお願い致します。計画の策定体制についてでございます。計画の策定に当たりましては、後期推進計画策定委員会、本委員会を設置致しまして、計画全体の検討を行います。また、分野ごとに戦略プロジェクト部会を設置致しまして、専門的な検討をしていただきます。併せて、庁内におきましては、分野ごとに組織横断的なワーキングチームを設置致しまして、計画案の作成を行いたいと考えております。

また、計画の策定に当たりましては、市民の皆様の声を最大限反映させたいと考えておりまして、市民アンケート調査、地域や市民活動団体等との意見交換、地域シンクタンクである八戸市都市研究検討会からの提案、パブリックコメントを実施致しまして、計画づくりへの積極的な市民参加を図ってまいりたいと考えております。

12ページをお開きください。こちらは、本策定委員会と戦略プロジェクト部会のスケジュール、それから13ページには、庁内ワーキングチームの組織表を掲げさせていただいております。これらにつきましては、16ページでまとめてご説明を申し上げたいと思います。

10月下旬の策定に向けてのスケジュールでございます。16ページをお願い致します。ここでは、縦軸の真ん中のところで、後期推進計画の策定委員会と戦略プロジェクト部会の流れを示しております。左側は市民意識等の反映、右側には先程少しご説明致しました、新市建設計画後期計画の策定の流れを示しております。

真ん中のラインで流れをご説明致しますと、本日は4月28日でございます。第1回の策定委員会でございます。このあと5月28日に第2回目の策定委員会を開催し、ここでは、素案を検討したいと考えております。そして、7月16日には第3回目で1次案、8月27日の第4回目では2次案、そして10月15日に第5回策定委員会を開催させていただきまして、最終案の検討という流れを考えております。

策定委員会の開催におきまして、戦略プロジェクト部会をそれぞれ4回開催したいと考えております。まず次回になりますが、5月14日におきましては、戦略プロジェクトの素案をお示しいたしまして、検討をいただきます。そして7月2日には、第2回の戦略プロ部会、ここでは1次案、8月6日の第3回戦プロ部会では2次案、そして10月1日の第4回戦プロ部会では最終案といったものを間にはさんで、策定委員会と部会の

運営を進めてまいりたいと考えております。最終的には10月下旬までに後期推進計画を策定致しまして、市議会に報告するといった流れになっております。

15 ページをお開きいただきたいと思いますが、こちらに皆様方のお名前を掲げさせていただいております。そして戦略プロジェクト部会のご担当についてでございますが、委員の皆様方の専門性などを勘案致しまして、割り振りをさせていただきました。これにつきましては、どうぞご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

以上で、報告と案件、2つのご説明を終わらせていただきたいと思ひます。

【委員長】 ありがとうございます。ただ今の説明に対してご意見・ご質問などございますか。

質問なし

【委員長】 よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、審議案件の方に移りたいと思ひます。初めに「審議1. 策定委員会・部会の運営方法案について」ということで、事務局の方から説明を致します。

【事務局】 それでは事務局から「審議1. 策定委員会・部会の運営方法案について」ご説明を申し上げます。まず1番目、策定委員会の方の運営方法案でございます。(1) 会議は公開と致します。(2) 傍聴者は、会議で発言することはできません。(3) 会議における発言は議事録として記録されます。(4) その議事録は公開されます。議事録の作成につきましては、委員のお名前の方は、委員A、委員Bというかたちで公開されていく予定となっております。

2つ目、戦略プロジェクト部会の方の運営方法でございます。(1)、(2)は策定委員会と同様で、会議は公開、傍聴者は発言できないとしております。(3)からちょっと変わらしまして、部会の方は、ざっくりばらんに皆さんで意見交換をしていただくという趣旨もありまして、ワークショップ形式で、市の職員の事務局側と一緒に検討していただくようなかたちで説明させていただければと思ひています。部会の進行は、部会長さんにお願ひしたいと思ひしております。

もう1つ違う点と致しまして、会議録ですが、こちらの方は、策定委員会のような全文筆記型ではなくて、概要を記録して公開したいと考えております。

以上で運営方法案についてご説明を終わります。

【委員長】 それでは、ただ今の説明に対してご意見・ご質問などがございますか。

質問なし

【委員長】 はい、ありがとうございます。それでは、以上の方針に従って、当委員会および戦略プロジェクト部会を運営して参りたいと思ひます。

それでは、引き続きまして、「審議2. アンケート調査の実施方針案について」事務局から説明をお願ひ致します。

【EX都市研】 それでは、18 ページ、本計画策定において必要な基礎的データを得るために実施致するアンケート調査の実施方針案につきまして、ご説明を致します。

今回アンケートにつきましては、2種類を用意してございます。1つは一般の市民を対象とした「一般市民

アンケート」というものと、「有識者アンケート」、この2種類でございます。

一般市民アンケートについてですが、これは、戦略プロジェクトに力点をおきまして、それに関する市民の行動・意識の把握をするものでございます。そして、この一般市民アンケートにつきましては、前期推進計画の答申後に、平成19年1月でございますが、戦略プロジェクトに関することについてのアンケート調査を実施してございます。お手元の資料ですと、本日お配り致しました資料で、タイトルが参考。アンケート票、一番下のページが29となっているものです。本日お手元の方にお配りしてあるかと思えます。めくっていただきまして、簡単にどんなものか紹介したいと思います。最初の質問が、「当市では多様な雇用機会を～」というかたちになっているかと思えます。このとき行ったアンケートは、基本的には前期戦略プロジェクトにそれぞれ沿うようなかたちで、市民の当時の意識でありますとか、あるいは行動のようなものを聞いたものでございます。当時の目的と致しましては、前期の計画が終わる頃に、また同じような調査をかけることによって、その状況の変化というものを把握するとともに、さらに後期のプロジェクトの検討の際の、基礎的な資料を得ようということでもございました。この一般市民アンケートにつきましては、今回も質問項目の大きな骨格は、これを基本としながら、さらに必要な調査項目といったものを付け加えまして、実施しようというものでございます。

調査対象でございますが、また会議のもとの資料に戻っていただいて、18ページの表の2段目でございます。調査対象につきましては、前回、平成19年1月のときのアンケートと同様に、1000人ということで、無作為抽出で行うことを予定しております。前回のときの回答状況でございますが、回答率は63%、6割を超えた回収率でございました。

その次に調査内容でございますが、先程も申し上げましたとおり、基本的には前期推進計画の戦略プロジェクトの内容に関しまして、市民の行動なり意識に関わる設問を設定しております。また、今回、後期戦略プロジェクトの検討をするにあたって、いくつか設問を追加しようと考えております。また後で説明があるかと思えますが、後期推進計画において、現段階において想定している戦略プロジェクトに関する設問を追加します。また、前期推進計画から継続するプロジェクト等でありましても、前回のアンケートでは意識の把握・行動の設問が漏れていたものについては、必要に応じて追加をしていきたいと考えております。

それで、どういった設問を追加するかということ、一覽で整理致しましたのが、19ページの一覽表でございます。表の見方と致しましては、左側に戦略プロジェクトの体系がございまして、続いて設問の項目のタイトルでございます。具体的な選択肢などをはじめとしたイメージが「選択肢等設問イメージ」といった部分でございます。このうち特に米印で「追加」と書いてある部分が、今回新たに追加を考えております設問でございます。それ以外の部分につきましては、お手元に別冊でお配りしております、昨年度と同じような設問を考えておりますので、設問の説明は省略させていただきたいと思えます。

設問項目におきまして追加を予定しておりますのは、7つほどございまして、1つ目が一番表の上にあります「これまでの企業誘致の取り組みに対する評価」といったものでございます。「企業誘致推進・中小企業強化」というプロジェクトがあったわけですけれども、企業誘致の進捗状況につきまして、市民の方々がどのように認識をされているかといったことを、おうかがいしたいという趣旨でございます。

それから、下4つ目にいきまして「八戸ツーリズム」のところで、これまでの観光振興の取組に対する評価を追加しようということを書いております。これは、今回のプロジェクトで継続を想定しているものでございますが、これに関して前回のアンケートでは、「観光ボランティアへの参加経験・意向」というものを聞いておりました。これも前回に引き続き、その変化を把握するために聞きますが、この間、八戸市の知名度等につきましては、様々にマスコミ等でも取り上げられる機会があったかと思えます。そうしたことも踏まえまして、知名度というものが高まっていることに対して、どのような意識を持っておられるか、ということもさらに追加をしていこうという趣旨でございます。

それから下にまいりまして、「まちの魅力創造」という部分でございますが、その中の「環境創造」、そのの

一番下のところではありますが、「バスの利用状況及び利便性に対する評価」ということでございます。今後、モビリティ、移動の交通手段の確保というのが、高齢化等もありまして、重要な課題となってくる中で、こうした部分について、バスの利用実態でありますとか、あるいはそのバスを乗りたいのだけれどもなかなか乗れないというようなことがあるとすれば、それは一体どういったものが障害をしているのかとか、こうしたものにつきまして、質問をするものでございます。

それから「地域の安心確立」、「次世代育成」の部門では、「子育ての環境に対する評価」を追加しようと考えております。前回のアンケートでは、地域の中で子育てを支える仕組みをつくっていこうといったプロジェクトの中で、近所の子どもと接する機会でありますとか、子供・大人・高齢者等、多世代が一緒になって行く活動の状況を聞いたところではあります、やはり少子化とはいえ、次世代の育成というものが、今後持続可能な社会をつくる上では、極めて重要なテーマとなっておりますので、その子育てに対する評価というものを聞くとともに、また、様々な子育てに対する支援策がある中で、どのようなものを望んでおられるかといったようなことにつきましても、把握をしたいというところでございます。

それから、「自治基盤整備」の関係でございまして、追加となっておりますのが、「窓口サービスに対する評価」ということで、前回のアンケートでも、窓口の職員の方に対する対応や姿勢に対して評価をいただいているところでございますが、さらに市民サービスに対する向上という観点から、どのような窓口対応の充実の内容として、どういったことがあるかを把握しようというものでございます。

それから一番下、「広域連携・自立の促進」でございまして、前期推進計画以降の新たな動きと致しまして、定住自立圏、三圏域連携ということがあるわけでございます。こうした取組について、現段階においてどの程度の認知度があるかということと、こうした広域連携を通じて、どういったことが伸びていくことを期待しているのかといったようなものを把握する趣旨で設定した設問でございまして。

なお、付け加えますと、選択肢の設問イメージで、時々「その他」といった選択肢がございます。この「その他」につきましては、実際のアンケートにおきましては、自由記述と申しますか、そういった欄を設けて、選択肢以外で意見があるときには書いていただくことを考えております。

以上が「一般市民アンケート」でございまして、もう1つが最後、「有識者アンケート」でございまして。また18ページに戻っていただきまして、自治基盤計画、分野別計画には「目指す姿」というのがありますが、「有識者アンケート」は、それぞれに対して達成度を把握するものでございます。

具体のアンケート票でご説明致しますと、本日お配りしております資料3の23ページとなります。23ページ目のお願いの文をめぐっていただきまして、24、25ページが質問項目となっております。このように表形式でそれぞれの分野ごとに、「目指す姿」、こうありたいと思われる状態を設定致しまして、それに対して現段階で十分なされているか、まあまあか、といったような段階評価をしていただくアンケートでございまして。

このように、このアンケートの場合は、ボリュームもありますし、またアンケートそのものが多様な分野にもわたるといってございまして、有識者の方々を対象としております。具体的には、八戸市総合計画の前の審議会委員、また専門部会委員ならびに戦略プロジェクトの委員の方138名、これに加えまして市政モニターの方100名、約240名弱の方々にアンケート調査をお願いしているものでございます。

このアンケート調査も、前期計画策定後に1回目を行いまして、その後、先程ご説明がありました進捗の管理、市民委員会の方に報告するために、毎年継続して実施をしております。

18ページの中段の表のところ、過去の回収状況とありますが、1回目は8割、その後6割を超えるといったような状況で、定点観測的に実施しているアンケートでございまして。

こちらのアンケートの方は、基本的に定点観測の意味合いもございまして、前回と同様の内容で行ってまいりたいというふうに考えております。

ただし、1点だけ修正、変更する箇所がございまして、そのことについてご説明をさせていただきます。表の調査内容のところでも書いてありますが、また、資料3の方に戻っていただき、アンケートの実際の中身

を見ていただいてもおわかりになるかと思いますが、実は、この現況評価の軸というものが、「十分満たされている」、「まあまあ満たされている」、「あまり満たされていない」、「満たされていない」、「ほとんど満たされていない」、「わからない」、といったような段階でございます。

このアンケート案をつくった当時の議論の過程におきましては、「どちらとも言えない」というものを、入れるかどうかという議論がありました。それを入れてしまうと、そちらの方に丸が集まってしまって、なかなか評価が出てこないのではないかとというようなこともあり、とにかくどちらかに評価をしていただくということで、アンケートを組んだわけでございます。

しかし、進捗管理のための市民委員会の中で、逆に「どちらとも言えない」というものがないので、評価が偏りすぎているというケースも見られるのではないかとといったご指摘も受けたところでございます。そのようなことも踏まえまして、今回アンケートの大きな設問の項目は、前回通りと致しますが、この評価の項目につきましては、1段階を足しまして、「どちらとも言えない」という文も追加したいと考えております。なお、アンケートにつきましては、5月中の発送を予定しているところでございます。

また、この後に説明があるかと思いますが、こうしたアンケート調査による市民意見の収集と併せて、さらにまた深く意見を把握するための各種意見交換会も実施することとしており、その両輪をもって市民の意見の把握に努めたいと考えているものです。

以上でございます。

【委員長】 只今の説明に対してご意見あるいはご質問などがございませぬでしょうか。どうぞ、遠慮なく細かいことでも結構ですので、宜しくお願いします。いかがでしょうか。

私の方から1つ、有識者アンケートのところで、6段階評価になっているところです。「どちらとも言えない」を追加したことによって、前回までとの比較検討には、支障はないのでしょうか。

【EX都市研】 前回の方と比較するに当たりましては、少しは変わっておりますので、厳密に言いますと、もちろん若干変わってくる部分もあろうかと思えます。

前回のアンケートでは、実は集計を行うときには、「十分満たされている」ものに2点、「まあまあ満たされている」場合には1点、そういった点を付けて、それぞれ平均値を出してみたりという処理をしております。従いまして、今回の選択肢を付けた場合の点数の付け方で集計すると同時に、仮に前回と同じような得点の付け方をした場合の集計の仕方も行いまして、正確には微妙に違うところはありますが、大きな傾向としては、把握できるものと考えております。

【委員長】 ありがとうございます。むしろ今回の選択肢になるものが出てくるという話ですね。

【事務局 EX】 はい。

【委員長】 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。〇〇委員、お願い致します。

【委員】 今ご説明いただいた内容とは関係なくて申し訳ないのですが、今回、資料の11ページにもありましたように、地域シンクタンクである八戸市都市研究検討会様からのご提案も非常に大事なポイントであると思えますので、その八戸市都市研究検討会様が、どういうシンクタンクでいらっしゃるかを、ちょっとお聞きしたいと思います。どういう経緯で出来たのか、またどういう企業が出資しているとか、どういうことが専門分野であるとか、その辺を教えていただければと思います。宜しくお願いします。

【委員長】 はい。八戸市都市研究検討会の内容について。

【事務局】 失礼しました。少しご説明を加えれば良かったのですが、これは昨年度からスタートしております学官連携の研究会でございます。具体的に申し上げますと、八戸工業大学、八戸大学、八戸工業高等専門学校、この3校の校長さん方にお集まりいただき、その中に市長も入りまして、4者でもって、検討会を開催しております。この4者による協議による地域シンクタンクでございますので、地域における課題を踏まえた研究テーマを設定致し、半年～1年くらいの間をかけて研究をしていこうという趣旨で運営しているものでございます。

1年目にあたる昨年は、産業連関表による地域産業の分析ということで、9月からスタート致しまして、今年の夏くらいを目途に、アウトプットを出そうということで進めております。

また、併せまして、2つ目のテーマと致しましては、低炭素社会をにらんだ地域づくりといったテーマで、今年の5月くらいから第2段の研究を進めようと考えております。

研究委員でございますが、それぞれ3校と研究機関の専門の先生方に、市の公募の職員を入れ、その4者の所属委員によって研究を進め、皆様方に研究の成果を発表致しまして、地域づくりに活用していただく、そういった趣旨の研究会でございます。

なお、今年度から定住自立圏の構想推進の一環と致しまして、この都市研究検討会の中のシンクタンクに、周辺7町村の職員の方々も公募で入っていただくということで、現在、募集をしたところでございます。そのように地域のシンクタンクとして期待される検討会で、そちらの方々に、今回はその計画の切り口からのご意見を賜って、後期推進計画の中に盛り込んでいきたいと、そういった内容の研究会でございます。

【委員】 はい、わかりました。ありがとうございます。

【委員長】 他にいかがでしょうか。〇〇委員いかがでしょうか。

【委員】 別な場面で意見したいと思います。

【委員長】 それでは、アンケートは有識者そして一般市民アンケートと2種類あるのですが、この提案の通りでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは、この後期の推進計画の策定に当たりまして、市民アンケートと、そして有識者アンケートを実施してまいりましょう。宜しくお願い致します。

それでは、審議の3ですが、「地域や市民活動団体等との意見交換案について」、事務局の方からご説明があります。

【事務局】 はい、それでは、資料の方の20ページをお開きください。

審議3、地域や市民活動団体等との意見交換案について、先程、色々ご説明の中にあつたように、市民参画の1つの手法としまして、市民アンケートと併せて、地域の住民の方々や市民活動団体等と意見交換を行い、それによって市民のニーズや意見を反映することを目的にしております。

2つ目の意見交換ですが、幅広い世代や様々な分野に携わる市民の方々の意見やニーズを吸い上げるために、3つの方法で行いたいと考えております。下の方に表がございますが、区分として3つあります。まず1つ

目、グループインタビューでございますが、世代やグループごとの意見を幅広く把握するために、特にテーマを限定せずに、対象ごとに開催していく意見交換で、その対象としましては、大学生や女性団体、NPO等を想定しております。

2つ目としまして、ワークショップでございます。各分野の専門的な意見を把握していきたいということで、戦略プロジェクトのテーマごとに関係する団体や関心のある市民の方々に参画いただいて、意見交換をしていくというものでございます。戦略プロジェクトのテーマごとに行っていくということですので、皆様の戦略プロジェクト部会に対応したかたちで、それをテーマとした意見交換ということになります。

3つ目と致しましては、地域ヒアリングとなります。こちらは、市民の皆様方から幅広くご意見をいただきたいという趣旨で、対象やテーマを特に限定せずで、市内を4つの地域に分け、各地域で意見交換会を開催していくというものでございます。市内の開催場所ですが、まず中央地区では、市役所の会議室を活用したいと考えています。あとは東地区、もう1つは西地区、最後に南郷地区の方と、この4つの地域でそれぞれ意見交換会を開催できればと考えているところでございます。

意見交換会を開催するに当たりまして、市民コーディネーターのような方々にも参画いただければと考えています。市の職員と市民というだけではなくて、コーディネーター的な役割として、例えば皆様、策定委員会の委員の皆様方、前期推進計画の策定に携わった方々、市民委員会の委員の方々、そういった経験者の皆様にコーディネーターとして参画いただければということも考えております。

続きまして、実施時期についてです。資料の方には、計画の素案をもとに意見交換会を開催し、1次案へ意見を反映すると書いてございますが、現在、実施時期の方は、大体7月上旬くらいになるのかなということで、内部で検討しておりまして、ちょうど1次案が出るのが7月上旬あたりになるものですから、2次案の方にも意見を反映させていこうということで、そこは、修正をお願いしたいのですが、1次案および2次案の方へ意見を反映させていくということを考えてございます。

開催の時間帯ですが、意見交換会の対象者の方々が一番参加できる時間帯で開催することを原則と致します。やはり広く多くの方々に参加いただくことになれば、基本的には夜間の方の開催が主になってくるのではと考えているところでございます。特に②のワークショップや地域ヒアリングという広く一般市民の方々を呼ぶ場合は、夜間になるのかなと考えているところです。

以上で説明を終わります。

【委員長】 それでは、ただ今の説明に対しまして、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。いかがでしょうか。

特に無いようですので、このような意見交換は3つの方法で行っていくということで、そのようにさせていただきますと思います。どうもありがとうございました。

それでは審議の4ですが、後期推進計画戦略プロジェクトの構成案について、事務局の方からご説明致します。

【事務局】 それでは、会議資料の21ページをお開きください。後期推進計画の戦略プロジェクトの構成案として、それぞれ23ページまでの戦略プロジェクトの項目毎に、先ほど事務局が報告案件の方でもご説明致しました当市を取り巻く環境の変化、そこに書いてある期待される施策や効果を踏まえて、このように後期推進計画の戦略プロジェクトを変えていった方が良いのではないかとということで、大まかにとりまとめた表となっております。

表の見方ですが、真ん中に点線が引いてありますけれども、左側が前期推進計画での戦略プロジェクトの体系となっております。右側が今回後期推進計画を策定するに当たり、例えば施策を追加、充実・強化してい

なければならないというような施策案として、大まかなテーマをそこに貼りつけたかたちの表になっております。

先程、当市を取り巻く環境の変化で、まずテーマ出したものが、右側の白い丸で書いているテーマになっております。括弧で変化への対応ということで、記載しております。

もう1つ、新マニフェストの説明も先程致しましたけれども、新マニフェストの施策の中で、前期の戦略プロジェクトになかった新たなマニフェストの施策があった場合に、右側に黒丸でその施策のテーマを記載しております。そこには、括弧マニフェストと書いております。

このように、当市を取り巻く環境の変化、白丸の部分と新マニフェストの黒丸の部分の2つの視点を合わせ、今後、皆様が戦略プロジェクトの部会の方で検討していくに当たって、たたき台というかスタートという意味合いでご覧いただきたいと思います。この部分については、あくまで事務局案ですので、色々皆様からご意見をいただきながら、戦略プロジェクトの素案を固めていきたいと思っているものでございます。

それでは順に、表を説明していきたいと思っております。

まず21ページは、「地域活力の創出」のプロジェクト群でございます。1-1から1-5まで戦略プロジェクトがございますが、1-1の企業誘致推進・中小企業強化プロジェクトにつきましては、これまでの施策にさらに追加して、八戸港の機能強化という施策が必要ではないかとまとめております。これはマニフェストから来ているものでございます。

続きまして1-2、攻めの農業プロジェクトでございますが、こちらは環境変化への対応として白丸の一次産業振興の部分と、マニフェストの方からも発信型農業の支援の施策が新たに出されているところでございます。

続きまして1-3の攻めの水産業プロジェクトでございますが、こちらは変化への対応として、先程と同じ一次産業の振興という部分もございますが、マニフェストにも水産加工品のブランド化の施策が打ち出されているところでございます。

続きまして1-4の八戸ツーリズムプロジェクトでございますが、変化への対応としましては、都市の多様な魅力づくり、マニフェストからもフィールドミュージアム八戸構想の推進が出ております。このフィールドミュージアムというのは、八戸市全体を1つの博物館と例え、それぞれの八戸の魅力ある資源を発信していこうという構想でございます。これもマニフェストに位置付けられているものでございます。

続きまして1-5の産学官民連携プロジェクトですが、マニフェストで地元大学の学生さんとの連携を強めていこうという施策が挙げられてございます。

その下、前期には何もない部分なのですが、今回新たに雇用対策を加えております。雇用対策の強化とマニフェストにも出ている雇用の維持・創出という両面から、雇用に力を入れた方が良いということが言えるかと思っております。

続きまして22ページにまいります。

2の「まちの魅力創造」でございますが、2-1の中心市街地再生プロジェクトでございます。こちらについては、変化の対応のところでご説明しました通り、さらに中心市街地の活性化をやっていかなければならないという状況になってございます。

2-2の文化・スポーツプロジェクトでございます。こちらは都市の多様な魅力づくり、またマニフェストにおいてもアートのまちづくりが新たな施策として出されているところでございます。

2-3の環境創造プロジェクトの中でございますが、今回やはり地球温暖化対策の充実という面が世界的にも全国的にも求められているところでございます。

続きまして3番「地域の安心確立」のプロジェクトでございます。

3-1の次世代育成プロジェクト、こちらは前回子育ての施策の方が多かったのですが、やはり教育も併せ

て次世代育成の充実が求められていることがあげられます。あとは、マニフェストにも青少年教育の充実という部分が打ち出されているところでございます。

3-2の高齢者・障がい者自立プロジェクトでございます。共生社会の推進が求められている中、マニフェストでも福祉の充実に努めていくという施策が数多く出されております。

3-3の暮らしの安心プロジェクトでございます。こちらも共生社会の推進はもちろんのこと、マニフェストでも医療の充実の施策が打ち出されているところでございます。

最後、23ページにまいりまして、「自治基盤の整備」プロジェクト群でございます。

4-1の協働のまちづくりプロジェクトでは、変化への対応のところでもご説明したとおり、協働のまちづくりの推進、新たな公による社会づくり、そういったものが求められているところでございます。

4-2の行財政改革プロジェクトでございますけれども、マニフェストからも危機管理体制の強化という施策が打ち出されているところでございます。

4-3の市民サービス向上プロジェクトは、マニフェストから多様な市民の意見を市政へ反映していくような数多くの施策が盛り込まれてきているところでございます。

それから今までのプロジェクトにはなかったものですが、広域連携の推進です。定住自立圏の絡みで、広域連携の推進・自立の促進という部分が出てきております。

以上、全体を見ますと、新たなプロジェクトとして追加した方が良いのではないかとというのが、21ページのところにございます。地域活力の創出のところ、一番下にも書いてありますが、まず雇用対策の部分で、この新たなプロジェクトが必要ではないかと考えております。また、今言った23ページの広域連携や自立の促進の部分で、広域行政関係のプロジェクトも必要ではないかというのが、今の考え方でまとめると見えてくる感じとなっております。

以上で戦略プロジェクトの構成案について、ご説明を終わります。

【委員長】 それでは、ただ今の説明に対しましてご質問・ご意見などがございませぬでしょうか。いかがでしょうか。

せっかくですので、「これでよし」とか「追加がある」とか、「変更、こうした方が良いのではないか」というご意見を、各プロジェクトチーム数名ずついらっしゃるので、適当にご指名させていただいて、ご意見をいただきたいと思っております。代表して1名くらいずつお願いしたいと思っております。

〇〇委員いかがでしょうか。今のこの変更・検討内容も含めまして、何かご意見ございませぬでしょうか。

【委員】 この後チームに分かれて、それぞれのチームで意見交換したらいかがでしょうか。

【委員長】 はい、ありがとうございます。それでは、〇〇委員いかがでしょうか。失礼致しました。

【委員】 はい、この私の分野に関することですか。全体的なことですか。全体でもよろしいでしょうか。

【委員長】 はい、どちらでも結構ですよ。ここの今のプロジェクトにかかる部分でも。

【事務局】 いいえ、そうではなくて、その他の方であったので。

【委員長】 ああ、そうですか。では〇〇委員にお願いします。

【委員】 ご指名いただいたのですけれども勉強不足で、今ここがこうと言えるほどことがないので、大変申

し訳ないのですが、もう少し勉強させていただきたいと思います。

【委員長】 はい、ありがとうございます。

それでは、〇〇委員、いかがでしょうか。

【委員】 個々の意見も大事ですけれども、せっかく戦略プロジェクトの部会もあるようですので、そこで、ご意見をいただいた方がよろしいのかと思います。

【事務局】 はい、ありがとうございます。ただ、プロジェクトを含めて、自分が所属するプロジェクトだけではなくて、他のところでもご意見があったらということです。〇〇委員いかがですか。

【委員】 では、お話しさせていただきます。それぞれの専門分野で、話すことはたくさんあるのですけれども、全体として見たときに、八戸市のやっている様々な素晴らしい事業が、なかなか市民全体には行き渡っていないと感じます。色々な広報誌などが出ているのですが、それらが意識して見られているのかどうかという部分では、疑問に感じています。

私は、教育の現場にいて、保護者と多く接する機会があるのですが、「色々な事業を、八戸市はやっているのよ。」とパンフレットなども配っても、「へえ、そうなの。」なんていう反応が返ってきます。こういう素晴らしいことをやっているのだということを上手に広報していくことも、必要ではないかと感じました。例えば分野ごとに分かれた場合でも、広報の方法について、色々な工夫、アイデアを出すことも必要ではないかと感じました。

【委員長】 はい、ありがとうございました。それでは、〇〇委員、最後ですがいかがでしょうか。

【委員】 私もまったく勉強不足で、今、理解の半分ぐらいにきたという段階ですけれども、一応、市長さんのマニフェストも読ませていただきました。今日の事務局の資料に関しては、この方向で良いのではないかと感じております。

【委員長】 ありがとうございます。ご指名で大変恐縮ですけれども、ありがとうございます。

それでは、基本的にこの大きな枠組みで、こういうかたちで戦略プロジェクト部会、策定委員会で検討していくということで、ご了承いただいたということに致します。

それでは、すべての案件が終わりましたけれども、その他のところで何かございませんでしょうか。どうぞ。

【委員】 私も勉強不足で、教えていただきたいということで発言させていただきます。市長のマニフェストの中で、4年前の社会状況と今の状況が合っていないということで、そのために1年前倒しで計画を策定することだと思えます。

一方、委員として、実感として、はっきり把握ができないなという部分があります。例えば、これまで取り組んだ中で、行政の支出の削減等々をやっただけで、かなりの部分で財政への貢献が出ているということですが、1年前倒しで我々はその計画を策定するとなると、我々に問題意識、危機感がなければ、意見が出てこないと思います。アンケートもいいのですが、私個人としては、現状はこのままで良いのか、あるいはこのままでは駄目なのか、その辺のところをしっかりと把握したうえで、策定作業を進めていきたいと思えます。

そのために、例えば、今の八戸市の工業生産額の値がどうなっているのかという問題だとか、あるいは、税収入はどうなっているのか。また、例えば、人口の増減ということでは、今後、地域を特に支えていく学生た

ちも卒業して、優秀な学生ほど地域に戻らないという現状があります。中央に行って、良い成績を修めても就職する企業がない、Uターンする必然性がないという現象なども聞いております。全体として就職はどうなっているのかなど、そのような部分の数字的な部分をはっきり把握したいと考えています。

そうした数字があれば、検討の判断材料になると思います。プラスのデータではなく、負の部分のデータというのでしょうか、そういった部分も、もし把握しているものがあれば、ここに提出していただいて、ぜひ判断材料となるものをいただきたい。色々な意見を聞く以前の現状のデータをお示しいただけないものか感じております。以上です。

【委員長】 ありがとうございます。後期推進計画を前倒しにして策定するというこの背景は先程もありましたが、もっと負のデータを含めてどうなっているかという資料は提示できると思います。いかがでしょうか。

【事務局】 委員の皆様が必要であれば、後日ご配布させていただきます。なお、今後の進め方でございますけれども、この推進計画の分野別計画には、有効求人倍率や雇用、生産額などのグラフが載っております。その中でも、見ることができますが、主要な経済社会の動向のデータをお示しした方がよろしいのであれば、後日調整致します。

【委員長】 それは可能だということですね。そうしますと、事務局の方から委員全員の方に、お送りいただけるでしょうか。

【事務局】 はい、承知致しました。

【委員長】 それでは、他に何かございませんでしょうか。
はい、どうぞ。

【委員】 今、データの話が出たので、ちょっとお聞きしたいのですが、先程、アンケートと、市民との意見交換に関してのご説明がありました。アンケートに関しては、継続しているものですから今更大きく内容を変えるということはないと思いますが、意見交換は非常に良いことだと思います。

ただし、私たちがこれから検討にするときには考慮していただきたいことがあります。例えば、アンケート調査票の30ページに地元産の農産物の購入頻度に関する質問があります。ここでどういう結果が出るのかわかりませんが、意外と話を聞いてみると、八戸地域の商品かどうかもわからないということがあります。また、ボランティアへの参加意向も聞いていますが、参加してみたいという方が多い、少ないといった問題ではなく、参加してみたい方が多いのにもかかわらず、実際に活動する人数がそうでもないのは何が原因なのだろうかということ把握することが重要だと考えております。数字だけわかっても、理由がわからなければ、分析するのは難しいと思います。

そこで、グループインタビューなどのときに、このアンケートとどこかリンクする部分があるのかどうかを教えてくださいたいと思います。つまり、予想していたのと非常に結果が違うとか、どうしてこういう結果が出るのかわからないときに、インタビューで確認することで、次の段階に進めると思います。

【事務局】 はい、確かにそういったご指摘もあろうかと思えます。今回のアンケートは、前期推進計画から引き続けている項目を全面的に分析したいので、同じような内容で組ませていただきたいと思っています。その中で、足りない部分が多々出てくるかと思えます。

従いまして、そちらの部分につきまして、グループインタビューの中で、深く掘り下げてみるものが考えられます。また、皆様方の方でも、その辺を掘り下げていただくことも、ひとつの方法であると考えております。以上でございます。

【委員長】 他にいかがでしょうか。無いようでしたら事務局の方からお願い致します。

【事務局】 はい、次の策定委員会ですが、5月14日の戦略プロジェクト部会を間に挟みまして、5月28日を予定してございます。後日改めてご案内と併せて資料を事前に発送致しますので、宜しくお願ひしたいと思ひます。

また、本日はこの後、各戦略プロジェクト部会の打ち合わせを行いたいと存じますので、会議終了後、改めて説明をさせていただきます。

【委員長】 はい。それでは、議事につきましてはすべて終了いたしました。皆様方のご協力ありがとうございました。

それでは、司会進行を事務局に戻します。

【事務局】 以上をもちまして、本日の策定委員会を終了致します。本日は、長い間、どうもありがとうございました。

以 上